



愛が最優先



やまもと まこと 山元 眞 神父

ピン・ポーン。ふうーっと一息ついたときによく聞く音。玄関に出てみると、五人の方がすこしうなだれたような感じで立っておられた。

「急に訪ねて来てすみません。」

「どーぞ、どーぞ。」

病院にお見舞いに行った帰りとか。

「神父さんに怒られるのを覚悟で参りました。」

「めったなことでは怒りませんよ。」

長い間、教会に来ていなかった身内の方に「終油の秘跡」をして欲しいとのこと。今では「病者の塗油」と言うのだが…。「ずっと教会に来てなくて、こんな時だけお願いに来てす

ません。」

新しい信徒発見！ これは神父として最もうれしいことのひとつ。

「怒ったりはしませんよ。うれしいことではないですか！」

「そう言っていただと気が楽になります。」

よく話を聞いてみると、もう何十年も教会に來られてないらしい。教会籍もどこにあるかわからない。急に危篤状態になって、それで信者の身内の方が心配して教会に來られた。願いは二つ。一つは「終油の秘跡」をしてあげて欲しいということ。もう一つは、葬式をぜひ教会でして欲しいということ。怒るようなことではない。しかし、怒

る人もいるのでしよう。信者の

方でこのようなことを恐れる方

はいるようである。願う人の方

にも：他の人たちからあとで後

ろ指をさされないために：とい

うような心情が垣間見られて残

念に思うことがある。

このようなとき、わたしは尋ねる。

「皆さんの気持ちはよくわか

りますが、本人がそれを望んで

おられるのですか。それともあ

なたがたがそれを望んでおられ

るのですか。その方のご家族は

どのようにお考えなのですか。」

「本人はもう危篤状態なので、

そのところはよくわかりませ

んが、本人も望んでいると思

います。」

「ご家族の皆さんは？」

「お嫁さんが信者でないので、

よくわからないみたいで…。貧

しい家庭ですし、葬儀の費用の

ことでも悩んでいます。」

「こういうときには順序があ

ります。まず、当人の意志を確

かめること。そして、ご家族の

気持ちを考えること。後のこと

はそれからです。」

奥さんを教会にお呼びした。

教会に來られる間に「身内」の

皆さんにお話した。

「秘跡は当人が望むことが大

切です。《皆さんの安心》のた

めだけに行われるものではありません。

それから、信者の皆さんにとつては当然のことであつ

ても、信者でない方にとっては

初めてのことで、意味もよくわからないと思います。よく説明してから、まず関係者の方々の気持ちや考えを聞くことが大切です。信者の側の一方的な考えを押し付けてはいけません。

教会にずっと来られてないからといって心配することはありません。《今》と《これから》が大事です。判断の基準はいつも《愛》です。《愛》が最優先です。神さまだってそうですよ。いつも《愛》が先なんです。

葬儀も心配しないでいいです。この教会では日頃教会に来られない方も大切にします。決して「差」をつけたりはしません。それは徹底しています。たとえば教会委員を長くされていた方だから大切にするとか、信仰熱心な方（だれが決めるのかな？）だから丁寧にてもてなすとか、ましてや貧しいからとか、そういうことで何かが変わったりはしません。神さまの前ではすべての人の人生は等しく尊いものです。わたしたちはその方の人生に対して敬意を表し、感謝のうちに神さまの御手にお渡

しするだけです。だれも裁いたりすることはできません。唯一、裁くことのできる神さまでさえ、《愛》によって裁かれるのですから。そこにこそ《救いの希望》があるのですから。葬儀の費用も心配いりません。」

教会に来られた奥さんにも説明した。

「ぜひ教会がするようにしてください。秘跡というお祈りも」と言われた。

二時間後に病院を訪ねた。「身内」の皆さんと待ち合わせをして、ICU（集中治療室）に入った。痴呆も始まっているその方は、声を出して何かを言っておられた。近づいて手を握り「教会から神父が来ましたよ。何も心配しなくていいですよ。安心してくださいね」と言う声が止み、わたしの方をじっと見つめた。手を握ったまま回心を呼びかけ、反応を確かめる。付添っている皆さんと一緒に祈りを唱える。額と手に病者の塗油をする。聖体拝領ができないので、いつものように「ルルドの水」で額から頬、顎、首筋を

素手で拭いてあげる。感謝の祈りと祝福を与える。「何も心配しなくていいですよ。神さまとマリアさまにすべてをまかせてくださいね。神さまはきっといいようにしてくださいますからね」と言い終えてから、付添った方に声を掛けてあげるように勧め、病室を後にした。

いつものこと…。

このような状態でお祈りにいった後、一、二週間の準備の時間が与えられる。その「時」の間に当人も、家族の方も、「身内」の方も、人生のまとめの準備ができる。

いつも心から神さまに感謝する。人生のまとめのお手伝いができることを。そして、このようにして自分の人生のまとめも少しずつ準備していくことができることを。

【教会ホームページ】

[http://www.](http://www.yukuhasicatholic.ne.jp/)

[yukuhasicatholic.ne.jp/](http://www.yukuhasicatholic.ne.jp/)

【ブログ】

<http://micheleyam.exblog.jp>

＝善き隣人として奉仕する＝

葬儀の御用は弊社に

TEL 03-3702-0156 FAX 03-3702-0159

※御報参上・手続代行他。

(株) 沼崎商会

〒158-0086 東京都世田谷区尾山台3-9-6

サマリア式典部 沼崎 馨